



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしよ

No. 361

令和7年5月2日（金）発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141



みがく智徳のたのしさよ

校長 後藤 正美

今年の1年生も、素敵な姿が連日見られます。一生懸命に学校生活のことを吸収し、伸びようとしている姿に感心する4月でした。先日の算数では、絵を見ながら動物の数を数える学習をしていました（写真左）。

「キツネは何ひきいるのかな？」

多くの子は、絵を数えながら「四ひき」と答えました。そこに「五ひき！」と答えた子もいたのです。四ひきと答えた子も、一瞬「あれ？」と感じます。担任は、どちらなのかも一度数えるように促しました。「四ひきだ」と、五ひきと答えた子も今度は納得したようです。

「五ひきと言った人がいたおかげで、みんなで考えられましたね。」

この担任は、間違った答えを出すことの尊さを、こうして全体に価値付けました。

社会科の著名な教師である有田和正氏（2014年ご逝去）の名言に、「『はてな？』を発見できるのは学力だ」があります。与えられた問題は解決できるが、自ら「はてな？」という疑問や問題を発見できない子が多くなっていることへの警鐘でした。

子供とは、もともと学びたい意欲が高く、純粹ですが誤った考えを発表しがちです。誤った考えは切り捨てるのではなく、教師の言葉掛けで価値付け、分からないことを共有し合うことで考えることの愉しさが生まれます。考えることが愉しくなると、子供から次々に「はてな」が生まれてくるものです。

みがく智徳のたのしさよ

これは、校歌の2番の歌詞です。見小っ子が学習で目指す姿が描かれています。知識を学ぶことは大切。しかし、子供たちの未来を見据えた際、学習指導要領で示されている「資質・能力」を育成する授業を、さらに大切にしなければなりません。分かる喜び、考える愉しさ、やり抜いた満足感をもち、主体的に学ぼうとする子を目指します。

今年度も、教員の本務である授業づくりに、一層研鑽して参ります。子供たちが安定した心で登校できますよう、ご家庭でのお力添えをお願いいたします。